

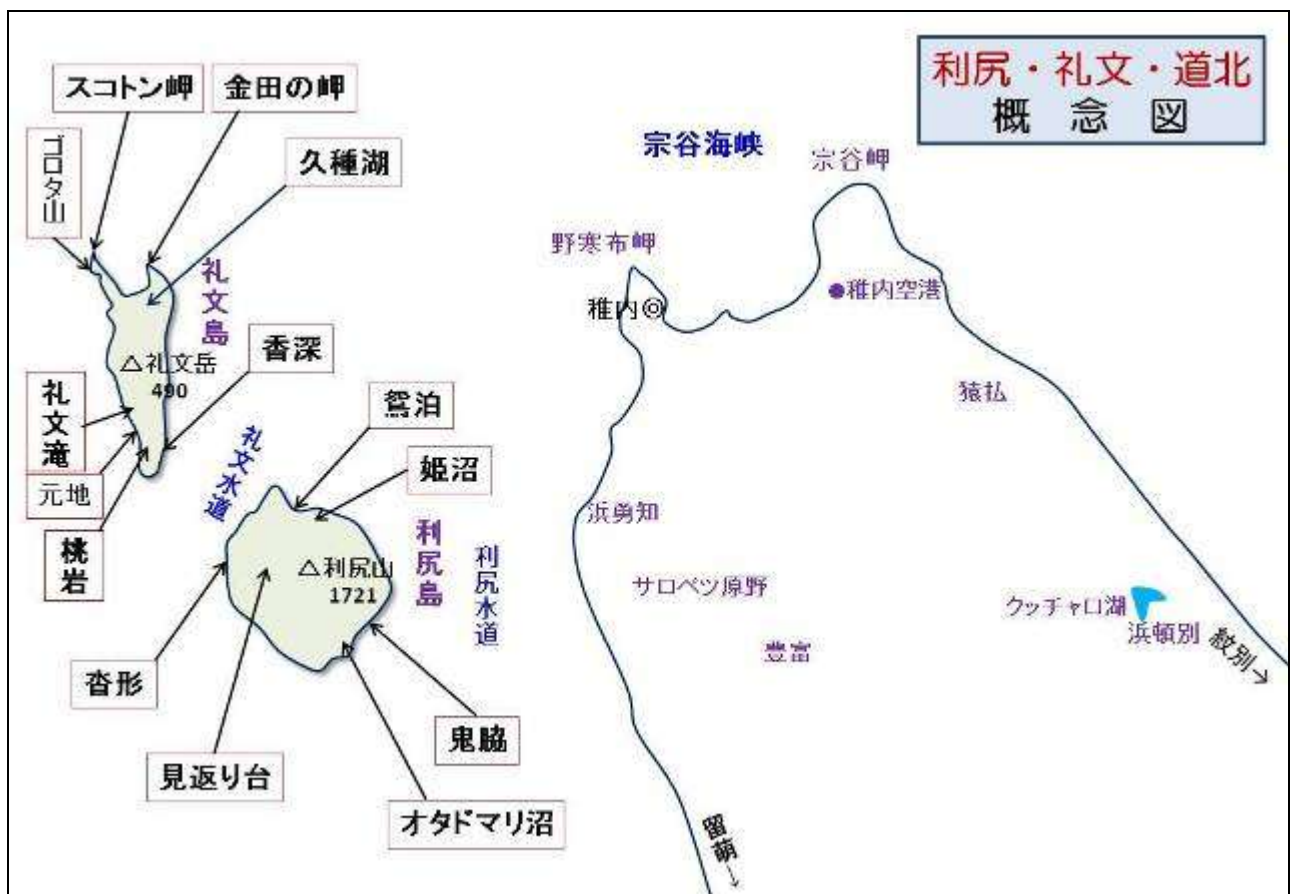
踏み跡 <My Mountains>

北海道(礼文島)	礼文島の軽い山歩き	No.234
----------	-----------	--------

勤続 30 年の一時金とリフレッシュ休暇が飛び込んできた。老母と同居の我が家としてはあまり長期にわたる旅は難しいので、二週間のリフレッシュ休暇の半分は旅行にあてて、残り半分は思いつくまま気ままに過ごしてみようということにした。

旅先としては色々考えた結果、新婚旅行先検討の時に(屋久島へ行った)リストアップしたもうひとつの案「利尻島と礼文島」を選んだ。本来ならば山歩きも交えたい島ではあったが、膝の故障が始まっていたことから、利尻山登山には耐えられぬと判断して諦めた。

利尻・礼文・サロベツ・豊富などをレンタカーで旅する 5 日間の中で、礼文島で歩いた日だけを「登山した日」と数えて、登山記録としても残すことにした。



平成 5 年 6 月 2 1 日 出発→羽田→稚内(稚内泊) 天気:東京は晴・稚内は小雨のち曇

羽田発 11 時 45 分、稚内着 13 時 25 分。羽田を出る時は半袖ポロシャツだったが、霧雨の稚内は気温 10 度。空港内で長袖ポロシャツとウィンドブレーカー用ジャンパーに着替えてレンタカー屋へ。宗谷岬、納寒布岬、ノシャップ寒流水族館と回った後稚内公園を散歩。曇っているのどこへ行っても寒い。途中で車を止めた駐車場で、どこぞから現れた狐が我々を遠まきに観察していた。やはりここは北海道だ。市役所の隣にある「かんの旅館」にチェックインした後レンタカーを返して市内を散策。

平成 5 年 6 月 2 2 日 稚内→利尻島→利尻島観光 (利尻島 鴛泊泊) 天気:曇たまに晴

早朝の稚内市内を散歩しながら稚内港へ。稚内港発 7 時 30 分、時折パラつく小雨と寒さで船上からの利尻島は裾野を見せるのみ。礼文島は高度が低いせいか全体が良く見え、桃岩の突起やオションナイ山等も確認できる。鴛泊(利尻島)着 9 時。レンタカーを借りて島を右回りに回る。姫沼、雄忠志内、鯨泊と変わった名前の集落を通過して鬼脇で利尻島歴史資料館へ。オタドマリ沼、湖畔の食堂兼売店で昼食。ウニ井と利尻井(ウニとイクラ)にホタテ焼きと豪華版。南浜湿原、会津の駒止湿原を思わせる湿原でワタスゲが白く光っていた。島の南端の御崎で自然水族館へ。

踏み跡 <My Mountains>

西に回って杓形港の先にある杓形岬公園の高台から海を見下ろして休憩。礼文水道をはさんで横たわる平べったい礼文島が印象的。利尻山にかかる雲が大分下がって沢筋の雪溪が見えてきた。登山口の確認をしようと思ひ杓形登山口の見返台公園（海拔 400m ほどか）へ行って見たが霧に包まれて何も見えず。ところが下ってきて栄浜を過ぎたあたりで見事に全貌を現してくれた。雲の流れが速く山の眺めは時々刻々変化する。洋上の独立峰とはこんなものなのかもしれない。

夕日が丘展望台で強風の中を夕暮れの景色を楽しみ、レンタカーを返して「田中家旅館」へ。

平成5年6月23日 利尻島（杓形）→礼文島（香深）→礼文島観光（礼文島 元地泊） 天気：曇

5時半に起きて朝食後6時20分に出発。昨日手配しておいたタクシーで杓形港へ。

杓形港発6時50分、香深（礼文島）着7時35分。レンタカーを借りて8時行動開始。

アワビ育成センターを見学させてもらおうと思って覗いて見たが、従業員の出勤直後のため遠慮。

上泊から海岸線に沿って幌泊へ。ホッケやタコや昆布を干している光景が続き、北国へ来たことを実感できる。金田の岬の灯台下の草地は色々な植物があり目の前にスコトン岬の柔らかな緑の曲線が見られる。

地図で見ると久種湖の南岸に湿原がありそうなので脇道に入って探索。湿原はあった。ミズバショウの群落と広大な乳牛放牧場の牧草地が混在している面白い湿原だった。

船泊湾を右手に見ながら行き止まりまで進むとスコトン（須古屯）岬。北に鯨島が横たわり、東斜面に花の咲き乱れる絶壁がある。

鮑古丹を抜けてゴロタ山へ、と思ったが車では抜けられそうもない。やむを得ず稜線上の車道に戻ってゴロタ山取り付き点へ。ゴロタ山周辺は海辺の丘でありながら高山植物や花の宝庫。まさしく植物の水平・垂直分布のあやとも言える素晴らしさがこの島にある。

ゴロタ山登山の後は鉄府に進み、稲穂の崎。海辺の岩の色、信じがたいほどの水の色、紫・黄色・ピンクなどの花の色。

船泊の食堂で遅い昼食の後、香深井から礼文林道へ。レブンアツモリソウ自生地を見て桃岩へ。桃岩まで行く途中はどこに車を止めても花が見られない所はないぐらいの花盛り。

桃岩の展望台の上に登る頃には寒い風が吹き荒れて、あまり落ち着いて景色を見てはいられない状態になってきた。

西海岸の元地に戻り今宵の宿「民宿うすゆき荘」に荷物を預けて、残りの島南面の知床へ行ってみることにした。知床を過ぎてカラカンナイ岬にさしかかった頃、洋上に待望の利尻山が姿を見せてくれた。上三分の一は雲に隠れているが、青い空・紺碧の海・満々と残雪を抱いた雪溪と裾野の緑。「利尻富士」と言う名にふさわしい美しさにしばし時を忘れて興奮した。

宿は島の西側なので日本海の日没、20時。

平成5年6月24日 礼文島→（香深）→稚内→サロベツ→浜頓別（クッチャロ湖泊） 天気：曇のち晴

礼文島を離れる前に礼文滝まで行ってレブンソウを見て来ようと言うプランが急浮上。宿の人に往復二時間はかかるだろうといわれたが……。7時に出発。

35分で滝の落ち口に到着。右手に絶壁、左手に日本海を見て岩場から落ちる滝の水が流れ込む岩場にはウニ・ナマコ・海藻が良く見える。ハクサンチドリ（のような花）に囲まれるように登って行くとレブンソウの群落。強い風に吹き飛ばされそうになりながら夢中で写真撮影。

8時45分に宿に戻り、送迎車で9時に出発し香深港へ。稚内行の船は10時15分発。

快晴、紺碧の空に利尻山が洋上に全身を現して歓迎。二階の甲板に上がって、船の進行に応じてさまざまに姿を変える利尻山を夢中でノートに何枚も何枚もスケッチ。

稚内着は正午。ウニ・カニ・ホタテガイ・ツブガイが入ったオホーツクラーメンを1,350円で味わって、再びレンタカーで行動開始。

南稚内から山越えをして日本海側に出て浜勇知自然観察路で小休止。稚内内の少し手前で、道の真ん中に狐が立っているのが急ブレーキ。道の両側は砂丘。狐としばらく遊んだ後はカンゾウとレブンスカシユリの群落。なかなか先に進めない。

サロベツ原野を突っ切りサロベツ原生花園で休憩。「広大無辺」という表現がぴったりのサロベツ原野を抜けた後は豊富を抜けて国道724号を東へ。数百mの山を二つ越えて浜頓別へ。途中で路上に狸が顔を出し

踏み跡 <My Mountains>

たり、巨大な蔭に食指を動かされたり・・・。

浜頓別町営国民宿舎「北オホーツク荘」が今日の宿。クッチャロ湖を見下ろす丘の上に建っている。

平成5年6月25日 クッチャロ湖→浜頓別→猿払→稚内→羽田→帰宅 天気：曇りのち雨

朝食前にベニヤ原生花園を見学し、帰りにオホーツク海の浜辺で昆布や漂着物拾い。

宿に戻って朝食をとり、最終日の行動計画を綿密に練り込んだ。その結果・・・

浜頓別の漁港に出かけて土産の海産物を購入。次はベニヤ原生花園の横の草っ原へ行き極太極上の（指ほどの太さ？）ワラビ。約10分で二人とも両手に余るほどの収穫。

猿払村村営牧場はクロユリが群生。引き続き国道を北上して上苗太路川沿いの林道に寄り道して巨大蔭の採集。素晴らしい土産が沢山そろった。

雨の宗谷岬で昼食をとった後、大事に持ち帰らなければならない山菜に気を配って荷物の詰め直し。そして都会の服装に着替えて稚内空港へ。出発35分前に到着し、レンタカーを返して搭乗手続きをして、更に手土産を買って・・・実に効率よくぎりぎりまで遊んで帰路に就いた。

羽田空港で半袖ポロシャツに着替えて帰宅。

以上

